

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス カラーズ		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・4事業所分かれているけど皆で見ることができる ・生活介護もある ・専門職が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム連携とコミュニケーションツールの活用 ・業務マニュアルの作成 ・保護者や関係機関との情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣病院との緊急時連携マニュアルを可視化検討 ・「卒業後」の不安を解消する移行支援
2	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎を行っている ・色んな年齢の子たちの交流ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎車内での利用時のバイタル、顔色、筋緊張の変化などを専門職の視点で記録し、保護者にフィードバック。 ・変形や緊張に合わせ、バスタオルや専用クッションを用いた対応をしている。 ・異なる年齢の子ども同士が交流し合える工夫をします。専門職が間に入ることで、重心児同士でも安全に「他者の気配を感じる」社会性の時間を創出します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4事業所合同のイベント開催 利用児が合同で楽しめる工夫や、移動の負担を最小限にしつつ非日常を味わえるイベントを4事業所合同で実施。 ・「通所」のためだけでなく、「普段家族だけでは行けない場所への外出支援」をカリキュラムに組み込む。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての理解があり働きやすい ・休みが取れやすい ・スタッフが多い ・祝日も受け入れしている ・入浴がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・3人体制での安全かつ丁寧な入浴 ・祝日・長期休暇の医ケア対応可能な体制を維持。保護者が冠婚葬祭や休息に充てられる時間を保証します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が冠婚葬祭や休息に充てられる時間を保証しPRしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいスタッフが多い ・医師のバックアップがなく判断が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務把握に時間がかかることが職員の負担を増やし、定着を阻害している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有手段(LINEWORKSグループなど)を機能させていく ・「連携シート」の導入: 重症児特有の観察ポイントをチェックリスト化する ・救急搬送シミュレーションの実施でスタッフの「いざという時の動き」をルーチン化していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・療育スペースが狭い ・駐車場が狭い ・園庭がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースを作るために整理整頓や棚の活用を工夫する必要がある。 ・駐車場が狭いことによる混雑や事故を防ぐ。 ・園庭で行うことを外部で実現させる方法はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースが狭いことを「常に目が届き、小さな変化も見逃さない」というメリットとして再定義する。 ・保護者や送迎車がスムーズに出入りできる仕組みを検討する。 ・重症児のバギー移動でも安全に過ごせる「屋外療育スポットマップ」を独自に作成する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴のためゆっくり時間が少なかったりする ・ベットの設置が難しく腰に負担がかかる、移乗にのリスクがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ数や人力に頼ることが多い ・床からの移乗動作の介助が多い ・利用時の成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗リスクを減らすためのリフトや、腰痛防止のサポーター導入を検討する。 ・スライディングボード・シートの活用 ・入浴日は人員を厚く配置する「集中ケア日」を設けるなど、スタッフの身体的・精神的ゆとりを確保する。